

## 今月の人

## 通勤電車で「しいめつれつ」

都市計画課総括課長

深澤 忠雄



私は毎日北上市の村崎野駅から通勤しており、延べ18年半になります。1年の勤務日数がだいたい230日で、片道約50分ですので、これまでの電車での通勤総時間は7,100時間、日換算すると300日となる計算になります。

この通勤時間は、私にとって自分が自由に使える唯一の時間と言ってもよいのです。疲れている時はただ一眠りするだけ。電車内での読書は目を悪くすることですが読書をしたり、ある時はMDを聞いたり、またある時はいろいろなことを考えたり、まさに自由な時間です。

時には、猫の額ほどの庭をどのようにしたら有効に活用できるのだろうか？春に何の種を撒き、その後に何の秋野菜の種を撒こうか？キャベツの株の間隔をどの程度にしたら大きな玉になるのだろうか？などなど、答えを出すでもなく、自由に想いを巡らせるだけです。

ここ数年、時々考えることは、事件事故の原因などです。例えば、つぎのような事件・事故です。

① 1999年9月に起きた国内初の臨界事故はなぜ起きてしまったのだろうか？マニュアルから逸脱していた方法をなぜ採ってしまったのだろうか？② 2000年ごろに発覚したある牛乳メーカーの「残った牛乳の再利用」については、衛生上の問題をどの程度認識していたのだろうか？顧客との信頼関係をどのようにして構築しようとしていたのだろうか？

③ 2004年3月の回転ドア死亡事故はなぜ起きたのだろうか？それまで、小さな事故がたくさん起きていたのになぜ原因を見極めようとしなかったのだろうか？④ 2006年6月のエレベーター死亡事故では、なぜ回転ドア死亡事故の教訓が活かされなかったのだろうか？

⑤ 2005年4月の鉄道事故の際の記者会見で、「置き石が原因であることも考えられる」となぜ発言してしまったのだろうか？⑥ つい最近のいじめによる自殺事件で、「実は、いじめがありました」と訂正しなければならないようなことをなぜしてしまったのだろうか？

これらの疑問について、ニュースや新聞報道のみの情報ですので正確なことは分かりませんが、自分なりに考えると、業務だけではなく、日常の生活にもいろいろ役立つことが見えてくるような気がします。①②では基本の大切さ、慣れの恐ろしさなど、③④ではハインリッヒの法則に基づく小さい事故への対処の必要性、事例から学ぶことの重要性など、⑤⑥では緊急時の正確な情報収集・対応の難しさなどを改めて気づかせてくれます。

また、これらを通じて強く感じることは、「知識を十分に活かすことの難しさ」です。①から⑥の全てについて誰も知識としてはどうすべきだったか、どうすれば大きな事件事故にならなかったのか知っているのではないのでしょうか？でも、起きてしまいました。OFF-JTも大切ですが、OJTがより重要であることを物語っているような気がします。

暗い話題のみになりましたが、いつも車内で暗いことばかり考えている訳ではありません。このたび、40年以上もポケットパークの清掃活動を続けてきた宮古市のある方が、大臣表彰を受けました。この方をこのような奉仕活動に駆り立てたのは何だったのだろうか？振り返って自分はどうだろうか？などなど車内でも支離滅裂です。

